

## 言語文化教育研究学会 第11回年次大会プログラム

色と色のプログラムはハイブリッド形式、色のプログラムは対面のみです。  
 色は発表者がオンライン、色は発表者が対面、いずれも参加者は対面・オンライン両方で参加可能で、会場ではZoom配信します。

一日目：2025年3月1日（土）

9:30-9:45 開会式 (201A)					9:50-11:30
9:50-11:20 フォーラム (対面のみ)					口頭発表 (発表者 ZOOM)
					司会：飯田亜依子
201A	201B	201C	205A	205B	205C
9:50~11:20 多様な「こ」から考えるローカル・ガバナンスとは何か—言語教育学系ゼミ生の語りを中心に  (張偉祺, 関西大学/杜瑞凌, 関西大学/渡辺怜, 関西大学/戸川朝子, 関西大学/近藤さくら, 関西大学, 飯利藍/関西大学, 尹惠彦/関西大学)	9:50~11:20 私たちが質的研究と出会った経験—触れて、振り返って、語り合う  (香月裕介, 神戸学院大学/伊藤翼斗, 京都工芸繊維大学/大河内瞳, 神戸大学)	9:50~11:20 もしあなたが住む地域に公立日本語学校があったら—作りたい学校・地域づくりのアイデアを出してみよう  (澤邊裕子, 東北大学/瀬戸稔彦, 大崎市市民協働推進部政策課日本語学校推進室/早矢仕智子, 宮城学院女子大学)	9:50~11:20 言語文化教育研究実践(者)のリフレクション—「難民支援者のためのパターン・ランゲージ」を「鏡」として  (伴野崇生, 慶應義塾大学)		9:50~10:20 JSL 児童の日本語学習における動機づけ—Deci & Ryan の自己決定理論を活用して  (飯田亜依子, 川崎市教育委員会)  10:25~10:55 日本語学習環境の変化による学習観の変容—ロシア語を母語とする日本語学習者の留学経験を通じた語りから  (松尾恵理沙, 東京国際大学)

					205C
					11:00~11:30 OPOL から Translingual Family Repertoires の動的構築 の様相—在北京日中国際 結婚家庭を事例に (小幡佳菜絵, 清華大学大 学院)
11:20-12:30	昼休み				
12:30-14:30	大会企画フォーラム「ローカル・ガバナンスと言語教育」(対面・オンラインハイブリッド形式)				
201A、B、C					
話題提供者：徳田剛，大谷大学／権代祥一，元・青年海外協力隊／岡孝則，国際交流ひらかわの風の会・会長／大田ナム，株式会社 Betoyama 全体進行：山本晋也，周南公立大学／松尾憲暁，岐阜大学					
14:30-15:00	休憩				

15:00~17:10 口頭発表 40分/30分 (発表者対面)			15:00~16:30 フォーラム (対面のみ)		
司会：村上智里	司会：佐々木陽太	司会：尹恵彦			
201A	201B	201C	205A	205B	205C
<p>15:00~15:40 スピーチ大会指導の専門性に対する日本語教師の認識の背景—「学習者に合った指導」を挙げている2名の相違点に注目して</p> <p>(末松大貴, 名古屋学院大学/細井駿吾, 東京国際大学/山田茜)</p>	<p>15:00~15:40 協同的オートエスノグラフィがあらわす英語教育のあり方—「英語の教育」から「ことばの教育」へ</p> <p>(佐々木陽太, 広島大学/中原瑞公, 大島商船高等学校)</p>	<p>15:00~15:40 ことばの役割 (symbolic form) が赴く「シンボリックパワー (symbolic power)」—在日フィリピン人介護福祉士の人生の径路に着目して</p> <p>(尹恵彦, 関西大学)</p>	<p>15:00~16:30 自己を拓き、共に課題を考える協働オートエスノグラフィ—教師の意識変容と権力性の脱構築を目指して</p> <p>(中井好男, 大阪大学/佐野香織, 長崎国際大学/嶋津百代, 関西大学)</p>	<p>15:00~16:30 「聞き書き」を取り入れた活動の可能性—「対話をつくる活動実践研究会(仮称)」立ち上げに向けて</p> <p>(三代純平, 武蔵野美術大学/千葉美由紀, 国際文化フォーラム/義永美央子, 大阪大学/上田安希子, 京都教育大学/永富あゆみ, 関西外国語大学)</p>	<p>15:00~16:30 「ファシリテーターって何をする人?」—経験則を可視化するパターン・ランゲージ作成の実践からファシリテーションを考える</p> <p>(仁野玲菜, 早稲田大学/伊藤茉莉奈, 早稲田大学/櫛田ひかる, 早稲田大学/寺浦久仁香, 武蔵野美術大学/松本明香, 東京立正短期大学)</p>
<p>15:50~16:30 脱力とほぐしから始まることば—身体感覚に根ざす社会性と情動の学習</p> <p>(横田和子, 日本映画大学/岩坂泰子, 同志社女子大学/守内映子, 日本映画大学/寺村優里, 京都大学)</p>	<p>15:50~16:30 留学生は教室の外でどのように授業課題に取り組んでいるのか</p> <p>(佐野真弓, 関西学院大学/藤原由紀子, 徳島大学)</p>	<p>15:50~16:30 設問の特徴が高校生の課題文読解型小論文の説得の方略に与え得る影響—高大接続の観点からみる「書くこと」の課題</p> <p>(荻田朋子, 大阪大学)</p>			
<p>16:40~17:10 アクティブラーニングのグループ活動にリーダーは必要なのか—メンバーの満足度からみる比較検討</p> <p>(藤美帆, 広島市立大学)</p>	<p>16:40~17:10 エジプト人日本語教師の「完璧主義的な私」を巡るナラティブ—認識・構築・再解釈の過程に着目して</p> <p>(近藤弘, 北海道大学)</p>	<p>16:40~17:10 中国語を母語とする日本語学習者が使用するフィラーについて—環境別と種類別の分析を中心に</p> <p>(龍思好, 大阪大学)</p>			

二日目：2025 年 3 月 2 日（日）

9:30-11:40 ポスター発表（対面のみ） 201A, B, C			
1	2	3	4
9:30-10:30 ジェンダークィアの L2 日本語話者にとっての日本語学習経験—クィア自身による経験の語りから  (小林知世, 大阪大学)	9:30-10:30 監理団体の代表者が技能実習生の日本語教育の必要性を認識した経緯—複線経路等至性アプローチを用いた分析から  (古田梨乃, 新潟大学/廣川智, 新潟大学)	9:30-10:30 日本語教育のステークホルダーを導出する試み—一人の日本語教師の語りから  (加藤林太郎, 神田外語大学/尾沼玄也, 拓殖大学)	9:30-10:30 北海道の非正規雇用日本語教師の負担と不安に関する研究  (久野弓枝, 札幌大学/藤原安佐, 札幌大学)
5	6	7	8
9:30-10:30 複数共同体の成員としての音楽大学留学生の行動変容—学部卒業時のインタビュー分析から  (小笠恵美子, 昭和女子大学)	9:30-10:30 自己表現を促す硬貨のある教室—日本語中上級クラスにおける心理的安全性と学力保障からのアプローチ  (田野茜, 京都大学)	9:30-10:30 ライフストーリーから見る EPA 介護福祉士が日本で仕事を続けるに至った経緯—「定着」の議論からは見えないもの  (藤原京佳, 大阪大学)	9:30-10:30 技能実習生の日本語学習の意味づけと動機づけの変容  (瀬口雅美, 立命館大学)
9	10		
9:30-10:30 日本語指導が必要な児童と関わる地域日本語ボランティアの支援に対する意味づけの変容  (高島史乃, 立命館大学)	9:30-10:30 教育系大学院生から見た地域共同型の外国人児童生徒教育—LISELL-B プロジェクトから見る再文脈化への示唆  (南浦涼介, 広島大学/細野花莉, 広島大学/大岡慎治, 広島大学/小國晴香, 広島大学/山本亮介, 広島大学)		

11	12	13	14
<p>10:40～11:40 2021年のクーデター後のミャンマーにおける日本語教育の現状—国際交流基金スタッフへの聞き取り調査を基に</p> <p>(水戸貴久, 立命館アジア太平洋大学)</p>	<p>10:40～11:40 「語りあいの場」における教師の自己理解と学習者理解の変容—ライフストーリーを読むこと・書くこと・語りあうことの効果に注目して</p> <p>(瀬尾悠希子, 茨城大学)</p>	<p>10:40～11:40 日本語「前置き表現」に対する解釈にあたってのメタ認知の変化プロセス—元日本語学習者のライフストーリーに基づく考察</p> <p>(李思雨, 東京大学)</p>	<p>10:40～11:40 子どもの日本語学習支援を拡充するために—自治体関連団体主導の「月イチ学習支援」の報告と考察から</p> <p>(式部絢子, 北海道大学・さっぽろ子ども多文化 s-net)</p>
15	16	17	18
<p>10:40～11:40 中堅日本語教師研修における研修生の変容プロセス—研修生 A さんのケーススタディー</p> <p>(小坂凜, 京都産業大学)</p>	<p>10:40～11:40 複数言語環境で育つ高校生のキャリア形成を支える日本語教育—キャリア・アダプタビリティの観点から</p> <p>(小林美希, 早稲田大学)</p>	<p>10:40～11:40 教育実習に関与する日本語学校と大学の日本語教員養成課程による越境的対話から何が生まれたか—参加した実習担当教員の変化とエージェンシーに着目して</p> <p>(北出慶子, 立命館大学/塩田朝子, 南大阪国際語学学校/山本弘子, カイ日本語スクール/杉本香, 大阪大谷大学/西村美保, 清泉女子大学)</p>	<p>10:40～11:40 都市部地域で「まちづくり」に積極的にかかわる市民の外国人に対する態度・意識—日本語教師がかかわることで市民に何をもたらしたか</p> <p>(寺浦久仁香, 武蔵野美術大学)</p>
19	20	21	
<p>10:40～11:40 教員の言語習得観の変容を促す外国につながる子ども達のワークショップ活動—授業実践記録と日本語教育担当者の振り返りから</p> <p>(松井かおり, 大同大学)</p>	<p>10:40～11:40 日本での就業経験を通じた元留学生の社会文化規範管理プロセス—TEA による諸要因と内的メカニズムの可視化</p> <p>(武田誠, 早稲田大学・東京大学)</p>	<p>10:40～11:40 マイノリティ言語話者にとって大学外国語教育の意味—継承語から繋生語へ</p> <p>(NIRAMOL RAWINAN, 東京都立大学)</p>	

11:40-12:50 昼休み／委員会企画（対面のみ）					
201A	201B	201C	205A	205B	205C
			11:50～12:40 シン ALCE Web マガジン 「トガル」公開編集会議  (アーカイブズ運営委員会)	11:50～12:40 SLCE『言語文化教育研究』の今までとこれから  (学術誌編集委員会)	11:50～13:30 ミニ・ヒューマンライブラリー「二人の若者の生き方と、私とのつながりを考える」 【15名限定:先着順】 (交流委員会)
12:50-14:30 パネルセッション（発表者対面）					
201A	201B	201C			
12:50～14:30 資質や能力について語る ときに私たちの語ること  (大平幸, 四国大学／勝部三奈子, 立命館大学／小川美香, 筑波大学)	12:50～14:30 「今よりちょっといいまち」を実現することば「地域日本語」のデザイン—「まちづくり」「コミュニティデザイン」「エリアマネジメント」の主語を通して考える—  (佐野香織, 長崎国際大学・ながさき Well-being ミライ研究所／石田聖, 長崎県立大学／中尾大樹, 一般社団法人 REPORT SASEBO・公益財団法人 佐世保地域文化事業財団・佐世保市役所／福田渚, 佐世保市役所)	12:50～14:30 聞く自分とは何か—中国・サハリン帰国者のライフストーリー研究の経験から  (佐藤正則, 山野美容芸術短期大学／三代純平, 武蔵野美術大学／山崎哲, 一橋大学)			13:50～14:30 フォーラム（対面）  205C  13:50～14:30 言語教師と省察—経験の共有から「私にとって省察を行う意味」を考える (梶原彩子, 国土館大学／末松大貴, 名古屋学院大学)

14:50-16:40 口頭発表（発表者対面）					
201A	201B	201C	205A	205B	205C
司会：米本和弘	司会：鷹野恵	司会：神山英子	司会：李曉燕	司会：田嶋美砂子	司会：吉田孝子
14:50～15:20 地域日本語教室で活動するボランティアのライフストーリー—教育者としての経験に焦点を当てて  (瀬井陽子, 広島大学)	14:50～15:20 日本語教師養成課程における態度涵養のケース学習—成長を俯瞰することの意義  (鷹野恵, 筑紫女学園大学 / 香月裕介, 神戸学院大学 / 水戸貴久, 立命館アジア太平洋大学)	14:50～15:20 現場のニーズを考慮した介護の日本語教科書の作成と実践—異文化コミュニケーション事例集を参考にして  (神山英子, 都留文科大学)	14:50～15:20 言語文化が芸術鑑賞に与える影響—異文化コミュニケーションと創造的実践研究の学際的視点から  (李曉燕, 九州大学)	14:50～15:20 言語教育実践を「連続体」の視点から自己内省的に振り返る—豪州の大学とのオンライン学生交流を事例として  (田嶋美砂子, 茨城大学)	14:50～15:20 ブルデュー理論からみた移民 1.5 世の多言語資源への認識と大学受験  (吉田孝子, 国際基督教大学)
15:30～16:00 対話の中で幸福を語りだす私—地域日本語教育における日本語教師の役割  (古屋玲子, 公益財団法人山梨県国際交流協会・日本大学 / 細川英雄, 言語文化教育研究所)	15:30～16:00 消極的キャリア選択と低待遇の受容—日本語教師はなぜ選ばれたのか  (勝部三奈子, 立命館大学)	15:30～16:00 災害を生き延びるための日本語—「サバイバル・リテラシー」獲得への一歩として  (萩原秀樹, インターカルト日本語学校)	15:30～16:00 英語・中国語・韓国語・日本語が持つ価値に対してそれぞれの言語教育はどのように「商品」として売り出されているのか—ベトナムの地方都市のある大学の事例から  (瀬尾匡輝, 茨城大学)	15:30～16:00 日本生まれ・幼少期に来日した外国にルーツを持つ子どもの読み書き実践—仲介場面に着目して  (玉田なつみ, 大阪大学)	15:30～16:00 中学校「授業は英語で」政策の伝達・解釈過程と実践に関する考察—批判的実在論の立場から  (梶ヶ谷毅, 国際基督教大学・ブリティッシュコロンビア大学)
16:10～16:40 言語教師による学習者の動機づけのマクロ方略をケアと認識することの利点  (杉原颯太, 京都大学)	16:10～16:40 コーディネーター職にない日本語教師のキャリア形成—複線径路等至性アプローチを用いた径路の類型化  (片野洋平, 長岡技術科学大学 / 佐藤綾, 福井大学 / 高木裕子, 実践女子大学)	16:10～16:40 日本語能力試験の合格率から日本語学校の実態を把握する試み—日本語学校単位のデータを用いた計量分析  (伊藤茉莉奈, 早稲田大学 / 門屋寿, 早稲田大学)	16:10～16:40 複言語主義の視点から言語学習者を捉えなおす—韓国語学習者 N さんの言語ポートレートから見えてくるもの  (李鉉淑, コリア国際学園)	16:10～16:40 外国につながる子どもの教育的課題の報じられ方—1990 年から 2024 年までの通時的分析  (村上智里, 関西大学)	